

2008年度 活動総括

1. 安心して子どもを産み育てられるまちづくりを目指す取り組み

<すべての階層において年齢が下の子の保育料が減額に！>

「保育料の値下げ」は、毎年行っている父母連アンケートの要望項目の第1位に挙げられ、保育料の値下げを望む声が大変に強いのが草加市の現状です。東京都の場合には、区ごとの財政不均衡を是正するために「財政調整交付金」などの都からの補助金があるなど、東京都と埼玉県とでは財政面での違いがあることは、3月父母連ニュース号外「市の回答書概要」において皆さんにお知らせした通りです。しかし、そのような現状はあるにしても、高い保育料が家計を圧迫する現実が変わりはありません。特に草加市の保育料は“保育料表の最高階層D19において76,000円と大変に高い保育料となっている”他、“3歳未満児の全体的な保育料が高い”などの現状があります。そこで父母連としても、毎年強い要望として「保育料の値下げ」を市に求めてきました。

そのような保護者の声が反映され、2008年4月より「きょうだい減免については、きょうだい幼稚園に入園している場合についても減額対象とするとともに、すべての階層において、年齢が下の子の保育料が減額される（民間認可外保育園や家庭保育室についても同様）」こととなりました。子育て世帯にとって家計の助けとなる、このような市の方針は大変にありがたく、歓迎すべき保育施策の前進です。

<ファミリー・サポート「ぼかぼか」による病児・病後児保育の実施>

子どもはさまざまな病気にかかりながら、免疫力をつけてたくましくなっていきます。しかし、頭では理解していても、水ぼうそうなどの長期の休みを余儀なくされる病気などは、社会状況がより厳しくなりなかなか仕事を休めない現状においては、働く親にとっての大きな悩みの一つでもあります。2008年度の父母連アンケートの結果でも、「病児・病後児保育の実施」は要望項目の2位に挙げられています。既に市の委託事業として行われていたファミリーサポートセンターの病後児保育が更にパワーアップし、2008年4月からは、ファミリー・サポート「ぼかぼか」による病児・病後児保育が新たに実施されることとなりました。子どもが病気にかかった時には、できるだけ仕事を休みたいと思いつつも、どうしても困難な場合があります。そのような時にファミリー・サポート「ぼかぼか」が応援してくれることは、本当に頼もしいかぎりです。子育てを応援してくれるこのような市の委託事業の実施に心から感謝したいと思います。

<2008年4月からの技能員業務のシルバー人材センター委託について>

2008年3月の4名の技能員の退職を機に、草加市は、公立保育園設立以来約50年もの間、市の職員で担ってきた「技能員業務のシルバー人材センターへの委託」に着手しました。ねらいは「人件費削減」ということですが、外部委託の場合は、あくまで「仕様書による事前業務発注」が基本となり、“保育園で突発的に発生する業務をすぐに直接お願いできない”などの制限もあるため（偽装請負になってしまいます）、保護者や現場はさまざまな不安を抱きました。2008年3月には議会に陳情書を提出し、将来的にも、市の職員である技能員と他の職種とが一体となった安定した保育を継続できるよう理解を求めました。しかし、外部委託は始まってしまいました。幸い、退職した技能員がシルバー人材センターに登録してくださり、引き続き業務にあたってくださった経緯もあり、大きな混乱や問題などは今のところ生じていません。しかし父母連としては、技能員業務を受託していただいているシルバー人材センターの方々に心より感謝しつつも、保育士・栄養士・調理師・看護師・技能員などによる一体的な保育に支障が出ないように、保育園職員は是非市の職員でお願いしていきたいと考えています。

<2009年度以降のさかえ保育園0歳児保育の継続と

今後の公立園の0歳児保育の継続を！>

2007年7/7の市の説明会で提示された「家庭保育室整備計画（素案）」には、“2009年度にはさかえ保育園の0歳児クラスを廃止し、近隣の家庭保育室に移行していく”との方針が掲載されていたようですが、市からは特に説明がなく“2010年度の新さかえ保育園の開園とともに0歳児保育

が家庭保育室に移行する”とさかえ保育園や父母連が理解しておりましたので、2008年10月中旬に“2009年度からの廃止”が保育課から伝えられた時には、皆一様に驚き動揺しました。

さかえ父母会では早速臨時総会を開き「2009年度以降も是非0歳児保育を継続してほしい」との要望をまとめ、「さかえ保育園0歳児保育継続の要望書」を作成した上で署名活動に取り組みました。1週間で1180名もの署名を集め、市に署名付き要望書を提出するとともに、市長懇談会にてその強い思いを訴えました。その結果、11月のハッピー家庭保育室の閉園などにより家庭保育室全体の受け入れ数が減少したこともあり、喜ばしいことに2009年度のさかえ保育園の0歳児保育の存続が決定されました。一つの父母会が一丸となった協力体制のすばらしさを垣間見た思いでした。

一方で市は、“0歳児の待機児童を解消するためには、公立園の0歳児クラスを計画素案通りに廃止して家庭保育室に移行させていき、公立保育園の0歳児クラスが空きになった分、公立保育園の1・2歳児の定員を拡大していく、という方針を今も変えていません。

それらの市の方針に対して父母連は、2009年2月に、各父母会や2010年度に0歳児クラス廃止が予定されている“さかえ・あさひ・にしまち保育園全世帯”にアンケートをとりました。その結果、以下のような意見が集約されました。

- ①0歳児保育については、公立保育園と家庭保育室とどちらも選択できるようにしてほしい。
- ②長年積み重ねた公立保育園の0歳児保育のノウハウを、草加市として継続していくことが重要である。
- ③公立保育園のように、全ての家庭保育室の保育もオープンであってほしい。
- ④家庭保育室へ移行するにあたっての具体的な方針がわかりにくい（公立園と家庭保育室相互の協力体制は具体的にどうなるのか？サテライト方式とは具体的にはどのようなことを指すのか？家庭保育室への負担が過重になってしまうのではないのか？本当にこれらの市の方針で待機児が減るのか？など）

父母連としても、今後以下のような疑問や不安を解消するために、市や家庭保育室や公立保育園の職員の方々との話し合いや検討を重ねていきたいと考えています。

- a) ハッピースマイル事件のように経営難を理由に突然の閉園などが二度と起きないように、営利目的の家庭保育室が参入しないような基準作りや市の指導が今後どのように改善されるのか？
- b) これらの方針を具現化するにあたって、市として、最も重要な家庭保育室や公立保育園の職員の意見を吸い上げて反映しているか？
- c) 公立保育園の空いた0歳児室に1歳児を受け入れるとしても、2・3・4・5歳児クラスに進級することを想定した場合、各園の各クラスに具体的に何名の受入れが可能であるのか？2009年1月には過去最高の保育園申込者数があり、2009年3月1日現在の待機児数が394名（0歳児：154名／1歳児：96名／2歳児：92名／3歳児：36名／4歳児：12名／5歳児：4名）と保育ニーズが高まっている最中の公立保育園の0歳児クラス廃止は、果たして時を得た保育施策と言えるのだろうか？今最も懸案となっている待機児童解消にとって効果的なのは、公立保育園の0歳児クラスを減らすことなく、家庭保育室を増室させていくことではないのだろうか？市長懇談会において、「現状に合わない無理な移行の実施はしない」と木下市長は述べていました。実際の待機児数の推移に合わせた無理のない計画の実施をお願いしたいと思います。
- d) 主に0歳児保育を家庭保育室が担い、1歳児以上の保育を公立保育園が担うとすれば、0歳児が少ない年度初めの家庭保育室の運営費の補填は実際に行われるのだろうか？
- e) 市長懇談会にて木下市長が明言したように、公立保育園と同等以上の保育を家庭保育室が担うとすれば、そのことで生じる負担過重に見合った人件費補助や家賃補助などは行われるのか？などの疑問です。これらについては、市が本格実施を予定している2010年度までには、「市一家庭保育室・公立保育園の職員一利用者である市民（保護者など）」が十分に話し合い、“草加市全体の保育の底上げ”と“喫緊の課題である待機児童解消”に結びつく施策の実現に向けて、協力し合わなければならないと強く感じています。

<栄養士退職に伴う栄養士削減をめぐる問題への取り組み>

保育園は、温かく密接な人間関係の中で幼少期の発達や人間性を育むとても大切な場所です。それだけに、安定した質の高い保育園職員の存在は大変に重要です。

ところが 2008 年度は、退職予定の 5 名の栄養士の補充を行わずに「次年度は栄養士を削減して 2 園統一献立を実施する」との人事・保育方針に変更があることを 2009 年 1 月に父母連として初めて確認し、保護者や現場が大きな不安を抱くという事態が起きました。2009 年度の給食がスムーズに提供されるよう、早速緊急集会を開催し、市長宛てに陳情書を提出しました。結果として、2 月に栄養士募集をかけていただき、何とか栄養士を削減せずに例年通りの職員体制で給食が提供できるよう、引き続き人材の確保に尽力していただいているところです。

ただ、2009 年度のような突然の人事方針の転換は、直接保育現場や子どもたちの育ちに大きな影響を与えます。「栄養士退職に伴う栄養士採用の経緯」や「今後の保育園職員採用の基本的な手続きと方針」などについて、保育課・職員課・市民とで共通理解し、ともに子どもの健やかな育ちを守るために、連携していきたいと願い、4/24 に草加市主催の「2009 年度保育事業説明会」を実施していただきました。

その結果、①「2009 年度以降の各園 1 名の栄養士配置方針の変更」を市として検討していたために、新たな栄養士の採用が行われなかったこと、② 1 月に、2009 年度は各園 1 名の栄養士配置の方針のままでいくことが確認され、2009 年 2 月に初めて募集がかけられたこと、がわかりました。

これらの取り組みを通して最も問題だと感じたのは、公立保育園が設立してから約 50 年間、公立保育園では各園 1 名の栄養士が配置され、自園直営方式の安全・安心なおいしい給食提供が行われていましたが、その方針変換の検討に際して、給食調理現場の意見を吸い上げることなく検討が進められていた、ということです。なぜ検討が必要なのか？市がモデルとしようとしている“他自治体の状況”などについての情報を行政と保育現場とが共有し、ともに検討を行っていくことが大切なのではないでしょうか。突然、技能員の外部委託が実施された時も同じような状況でした。

「市民との共同」を市政方針に掲げる草加市ですから、今後は、保育現場へ与える影響が大きい職員採用のあり方についても、是非現場や市民の意見なども反映していただきたいと思います。そして何より、子どもたちの日々の生活や成長を支える安全・安心な給食がこれからも安定して提供されるよう心から願ってやみません。

2. わかりやすく、やりがいのある父母会・父母連づくりへの取り組み

＜父母連ニュースの発行＞

各保育園の保護者の皆さんに、父母連としての活動や各園での取り組みについてわかり易くお伝えするために、毎年事務局からは「父母連ニュース」を発行しています。

2008 年度は、計 8 回発行(6/14・9/6・11/8・12/13・2/14・3/14・4/1・4/11)し、『第 23 回父母連総会報告/2008 年 4/25 草加市保育事業説明会の報告/2008 父母連アンケートのお願い/2008 父母連アンケート集計結果報告/育成保育保護者会報告/第 45 回草加母親大会報告/2008 市長懇談会報告/草加市小児・救急医療問題懇話会報告/給食だ〜いすきまつり報告/2009 年 4 月からの栄養士削減問題について/発達保障プロジェクト保護者交流会報告/技能員外部委託問題について/父母連役員告示/入園・進級おめでとう号/第 17 回草加子育てのつどい報告/第 7 回草加子育て団体交流会報告/0 歳児保育に関するアンケートの結果報告など』についてお伝えしてまいりました。よりわかり易いニュース作りをめざし、2009 年度も取り組んでいきたいと思えます。ご意見等ございましたら、各父母会役員もしくは父母連メール info@soka-fuboren.org までお願いします。

＜会長会・代表者会の開催/各父母会分担体制により皆で支え合う父母連活動＞

2008 年度は年 3 回の会長会 (6・9・1 月) そして年 1 1 回の代表者会 (5・6・7・9・10・11・12・1・2・3・4 月) を開催してきました。会長会では、○各園の状況や父母会運営についての情報交換などが行われました。代表者会では、①父母連事務局から各園への様々な事務伝達や報告 ②父母連活動方針や内容の検討 ③各園からの報告 ④保育情勢などに関する学習 などを行いました。各園の会長や代表者の皆さん、ご協力ありがとうございました。今年度の会議を通して出されましたご意見・反省点は、是非 2009 年度に生かしていきたいと思えます。

また、専従のいない父母連活動を皆で支えて行こう！との確認のもと、2008年度は、2007年度の「谷塚・草加・松原・新田ブロック分担制」を改善し、「父母連活動分担年間予定表」にもとづいて、印刷作業などの父母連事務局の仕事を各父母会と分担し合いながら活動を行ってきました。お陰様で、事務局の負担も軽減されました。ご協力ありがとうございました。

＜父母連アンケート（6月）の実施や市長懇談会（11／23）への取り組み＞

父母連の活動は、各園の保護者の皆さん一人ひとりの声が集まって初めて可能となるものです。そのためにも各園の声を会長会や代表者会で直接情報交換し合うと共に、年に1回、1600全世帯に父母連要求アンケートを行い、一人ひとりの声を市への要望書や保育改善運動に反映させるための大変重要な取り組みを行っています。その集計結果は父母連ニュースにてご報告したり、集計結果を冊子にして各園にお配りしたりしておりますので、皆さんで回覧されたことと思います。

2008年度は、父母会毎に、アンケートの記述部分を父母連事務局配布のフロッピーにまとめていただいたり、父母連ホームページから引き出した書式にまとめたものを父母連メールにて送付していただいたりするなど、集計作業がより効率化でき、皆さんの意見をまとめることができました。担当していただきました皆さん、ご協力をありがとうございました。

2008年6月に実施した父母連アンケートの結果、次のような傾向がみられました。

- ①保育料が高いと感じている家庭が多く、その傾向は低年齢クラスになるほど高くなっている。
- ②保育内容やクラス人数にはおおむね満足しているが、施設・設備について満足している家庭は「満足」「まあ満足」を合計しても半数弱である。
- ③時間外・延長保育の利用者が約7割である。
- ④草加市での出産割合が第3子までは3割に満たず近隣自治体(特に越谷市)での出産傾向が高い。
- ⑤完全給食を望む声は依然多く、「主食代を負担してでも実施を希望」の割合は約7割弱となっている。
- ⑥実現を望む項目の第1位は、昨年同様「保育料の引き下げ」であるが、昨年度第2位だった「完全給食の実施」が第3位となり、昨年度第3位だった「病児保育」が2008年度は第2位となっている。

これらのアンケート結果や各父母会のご意見をもとに要望書などを作成し、2008年度は11／23に開催された「市長懇談会」での話し合いなどに反映させました。

その結果、①「さかえ保育園の2009年度の0歳児保育の継続実施」や、②今後はハッピースマイル(株)のような営利企業が家庭保育室の経営にかかわることの無いよう「家庭保育室から株式会社や有限会社等、営利を目的とする者を排除する規定を整備する」などの市の回答を得ました。また③2008年度より下の子の保育料を半額にするなどの保育料負担軽減の実施、④2008年度より市の委託事業としてファミリー・サポート“ばかばか”による病児・病後児保育の実施、また2009年度の新さかえ保育園開園にあわせた「施設型の病児・病後児保育の実施を予定」、④完全給食については園長レベルでの他自治体の視察実施や検討が行われているが、当面は喫緊の課題である待機児解消を進めていくために直ちに完全給食を実施することは難しい、などの回答を得ています。

「家庭保育室の充実と公立保育園の0歳児保育の廃止及び家庭保育室への移行」の市の方針は現在も変わっていないとのことでしたが、家庭保育室が整備されない状況においては拙速に移行しないこと、また家庭保育室に係る国の実施基準やガイドラインが出された際には、草加市の家庭保育室の設置や運営に関する基準やガイドラインの作成を予定していること、が確認されました。

市長懇談会当日に扱いきれなかった、多岐に渡る父母連要望に対する市の回答書の概要は、2009年3月に全世帯にお配りしておりますので、ご参照ください。

上記の保育施策上の前進については、市の尽力に感謝するとともに、私たち保護者の思いが市政に反映されたことをともに喜び合いたいと思います。今後も、一人ひとりの声や各父母会の声を大切にしながら、大きな父母連の動きにつなげていきます。

＜父母連ホームページの充実＞

2006年度に立ち上げた父母連のホームページですが、2007年度以降は父母連の活動をより多くの方に知っていただくために「父母連の活動／草加市の保育園／これからの予定／おしらせ」など

の内容の更新に力を入れてきました。また、父母連メール info@soka-fuboren.org を通して、皆さんのご意見・ご質問をキャッチし、父母連事務局としてできるだけ迅速に対応するよう心がけてきました。

2008年度は、ホームページが情報発信の役割だけではなく、相互に情報交換できる役割も果たせるよう工夫しながら管理・更新を行ってきました。例えば、さまざまな回答用紙のダウンロードや回答のメール送信、問い合わせなど、父母連事務局と各父母会とがお互いにホームページを通してやりとりを行う回数が増え、利用回数も増えました。

今後も父母連ホームページや父母連メールを通して、父母連活動が父母連会員一人ひとりにとって身近でわかりやすく、リアルタイムに声を反映できるよう工夫していききたいと思います。

3. 私たち自身が楽しく学べる組織活動をつくる取り組み

<「第17回草加子育てのつどい」(3/20)の開催>

2008年度も一昨年同様、父母連・草加市職員労働組合保育部会・草加市家庭保育室連絡会・NPO法人さくらんぼ・NPO法人子ども広場草加おやおこ劇場との共催で「第17回子育てのつどい」を勤労福祉会館で行いました。

市内の家庭保育室やNPO法人さくらんぼなどの団体による、日頃の保育の様子を紹介するパネル展示では、草加市の子育てをいくつもの子育て支援団体や市民が主体的に支えている様子が紹介されました。父母連は「公立保育園における新たな取り組みや動きなど(①初めての技能員さん外部委託 ②栄養士さん削減問題は無事解決!? ③家庭保育室整備計画～公立園0歳児保育の廃止及び家庭保育室への0歳児保育移行～について ④新たな保育事業について)」などをテーマにしたパネルや「市内の子育てサポート一覧」を作成・展示し、情報と学びを提供しました。

つどいの全体企画では、「あかねの風保育園園長(所沢市)・埼玉保育問題協議会会長 牧裕子先生による“肩のチカラをぬいて子育てを!”のテーマでの講演会」を行いました。ご自身の育児経験や保育園での出来事などのお話をもとに「だれでも子育てはイライラするもの…頑張りすぎず、子育ての失敗を財産に!」「大好きだよ!のメッセージをきちんと子どもに伝えていきましょう」などの温かい言葉をいただきました。また、子どもの中に育てたい3つの「力」として、「自分の感情に付き合う力を育てる」「自分への誇りを育てる」「共感性を育てる」を挙げられ、子どもの自己評価を高めることや共感することの大切さを学びました。その他、保育園の直接契約制度への不安な思いや問題点などの保育情勢についてもお話いただき、私たち保護者もこれからの保育について“まず知り・学んで・考えていかなければならない”と強く感じました。

一方子どもたちは、プロとして各地で活躍されている大道芸人トムらっはいさんのパフォーマンスを楽しみました。園庭でのダイナミックなパフォーマンスを予定していたのですが、あいにくの雨天…園内ホールでのパフォーマンスとなりましたが、子どもたちは素晴らしいジャグリング・パントマイムなどに大興奮でした。最後には子どもやお父さん達を玉乗り体験させて下さったり、ジャグリングやパントマイムの練習方法を教えて下さったり、会場が一体となった素敵な時間となりました。

感想アンケートのまとめや報告については、父母連ニュース4月号にてお届けしました。

2008年度のつどいには、木下市長から暖かいメッセージをいただいた他、ご公務でお忙しい中、細川律夫衆議院議員や市議会議員(須藤哲也様・関一幸様・松井優美子様・斉藤雄二様・石村次郎様)のご参加もいただき、ともに学びを共有できましたことを心よりうれしく思います。

2009年度も、参加して良かったと思える企画を行っていききたいと思います。

<父母会主催「CAPワークショップ」への補助>

2008年度の「CAP(Child Assault Prevention 子どもへの暴力防止)ワークショップ」は各父母会企画で行い、父母連としては大人ワークショップの講師交通費と子どもワークショップ1回分の講師交通費を補助する形で応援してきました。2008年度は“やはた・さかえ・やつか・たかさぎ・きたうら保育園”がCAPワークショップを開催し、子どもを守る取り組みを行いました。

4. 共同の輪を広げる取り組み

＜「第9回草加子育て団体交流会」（3／20）の実施～より幅広い交流へと～＞

公立保育園保護者だけではなく、「公立保育園職員・NPO 法人さくらんぼ・NPO 法人こども広場草加おやこ劇場・あおば学園保護者会・獨協大学地域と子どもリーガルサービスセンター」などの市内のさまざまな子育てサポート団体と交流をもち、互いの活動や課題を話し合い、皆で手をつないで草加の子育てを良くしていこう！という目的のもとに行っています。2008年度は、新たに「NPO 法人草加元気っ子クラブ」「NPO 法人障がい児放課後クラブ GROWING」に参加していただき、より幅広い交流を行うことができました。

交流を通し“職員確保の問題”“大規模化や待機児問題”“安定的経営と市のかかわり方”などの課題や、これからの取り組みの方向性などについて共通認識することができました。「もっと市民の声を行政に届けよう！」との思いを皆で確認し合い、乳幼児・学童・障がい児などの全ての子どもたちにとってのより良い育ちの環境づくりをめざして、今後も横のつながりを大切にしながら交流していきたいと思えます。

＜「第3回育成保育保護者会」（9／13）の実施／

「学童発達保障プロジェクト保護者交流会」（11／30）に初参加＞

草加市内には公の早期療育施設が少なく、障がいのあるお子さんの待機児が数多くいるのが現状です。特に両親共働きの家庭においては、市の育成保育制度を利用することとなりますが、「働きながらの足立区や松伏町などの療育機関や病院通いはとても大変、2010年度開設の子育て支援センターに期待したい」「継続的な入園が難しいだけでなく、育成審査の流れや審査基準が保護者にわかりにくい」などの意見が出された一方、「保育園に通うようになってからの成長が著しい。療育の場としても保育園は大切」などの意見も出されました。それらの意見は、市への要望書などに反映させるとともに、「もっと就学に関する情報がほしい」との要望を受けて、学童保育の会主催の「学童発達保障プロジェクト保護者交流会」にお誘いを受けて初参加させていただきました。

同じ立場の先輩保護者の皆さんから伺うお話しは、就学前・就学後の親の思いや子どもの様子がよくわかり、実際に顔を合わせた交流による悩みや情報交換の大切さを感じました。

是非今後も、「育成保育保護者会」の実施や「学童発達保障プロジェクト保護者交流会」へのジョイント参加を継続していきたいと思えます。

＜民主教育をすすめる草加市民会議＞

主に小中学校・高校の教育の課題に取り組むゆるやかな集まりで、父母連も団体で加入しています。少人数学級の実現や市内の小中学校の給食の民営化問題、2学期制導入は子どもたちにとって必要なことなのか、などなど、私たち保育園保護者が数年後に当事者として直面する学校教育をめぐることから、学校の先生、学童保育の指導員や保護者、女性団体と日常的に意見交換やとりくみを作っています。もちろん保育も教育ですので、0歳児保育のあり方や待機児童のことなど、父母連から保育情勢を発信し、この会にあつまる市民との共有や一緒のとりくみをすすめています。

民主教育をすすめる草加市民会議も父母連と同様、市宛の要望を提出して市との懇談や教育予算説明会などの機会を作っています。この中には家庭保育室の充実や公立園における0歳児保育の継続、保育料の値下げ、病児・病後児保育、完全給食の実施などの要求を父母連からの提案で入れています。

＜母親大会＞

「生命を生み出す母親は 生命を育て 生命を守ることをのぞみます」を合言葉にした半世紀以上の長い歴史のある、母性を核にして暴力と貧困のない世の中作りを取り組む運動体に、草加父母連も加入しています。9月の草加母親大会（勤労福祉会館）の乳幼児分科会には父母連が運営責任団体としてかかわりました。

